HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学部1年生を対象とした企画提案型コンペのキャリア教育への活用
Author(s)	亀野, 淳
Citation	高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習, 27, 65-72
Issue Date	2020-06-23
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.27.65
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78828
Type	departmental bulletin paper
File Information	HighEdu.27.65.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/J.HighEdu.27.65
J. Higher Education and Lifelong Learning **27** (2020)
〈Report〉

Use of a Planning and Proposal Competition for First-year Undergraduate Students in Career Education

Jun Kameno*

Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

学部１年生を対象とした企画提案型コンペのキャリア教育への活用

亀野　淳**

北海道大学高等教育推進機構

Abstract ― This paper provides an introduction to topics including an overview of efforts to apply a planning and proposal competition to career education for first-year undergraduate students, the objectives of such efforts, and their results. Selection of a theme is very important in such a planning and proposal competition. The competition was able to raise the awareness of students, who had only recently entered university, of the significance of advanced, specialized knowledge in university studies as well as the importance and difficulty of collaborating with others. This in turn raises their awareness concerning the society of the future and also helps to enrich their lives as university students, ultimately contributing to the students' own careers.

(Accepted on 1 January, 2020)

1. 本稿の目的

本稿は，筆者が 2019 年度第 1 学期（前期）に実施した全学教育科目である一般教育演習「キャリアデザイン―自分の未来を自分で考えよう―」の概要を示したものである。特に，2019 年度には民間就職・キャリア情報会社が主催している企画提案型コンペに参加し，本授業の中で取り入れた。本稿では，その取組概要と目的，効果などについて紹介をし，多くの大学で実施されているキャリア教育科目にアクティブ・ラーニングを導入する際の留意点等を明らかにする。

2. 本科目の概要

2.1　設置の歴史・背景

本科目は 2005 年度より入学直後の学部 1 年生を対象としたキャリア教育科目の一環として開講され

*）Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan
E-mail: jkameno@high.hokudai.ac.jp
**）連絡先：060–0817　札幌市北区北 17 条西 8 丁目　北海道大学高等教育推進機構

た。入学後のできるだけ早期に自らのキャリアを考えるきっかけを与え，自らの目標に向かって前向きに勉学することを促すことを目的に，キャリア形成についての講義やグループワークなどのアクティブ・ラーニングを通じて，大学で「学ぶこと」と社会で「働くこと」の意義や関連性を考え，今後の自らのキャリアを考えるきっかけとすることができるような内容となっていた。2005 年度の開講時から 2018 年度までは特別講義[(注1)] として実施した。開講年度である 2005 年当時における同科目の目的，科目設定の背景，科目設定の意義は表 1 のとおりである。なお，本授業については，2005 年 9 月 27 日付け朝日新聞（夕刊）にも「学生がのんびりムードに染まる前に進路について考えさせる狙いがあった」「ディスカッション，コミュニケーション，プレゼンテーションなど様々な能力の必要性に気づかせる趣向だ」などと紹介された（朝日新聞　2005）。

2.2　2019 年度の内容改正

しかしながら，受講学生の減少や第 2 学期（後期）に開講している「大学と社会」（本学の卒業生がオムニバス形式で毎回講義を担当する特別講義）との差別化を図るため，本科目の区分を 2019 年度から「一般教育演習」[(注2)] へと移行し，よりアクティブ・ラーニングの要素を強めた。一般教育演習へ移行したのは，授業内容にアクティブ・ラーニングの要素をより強めたことに加え，実情に応じたきめ細かな学生への対応とその授業内容の趣旨・目的を受講希望学生に事前に周知するという目的もあった。

内容・スケジュールは表 2 のとおりであるが，2019 年度の内容の改正の大きな特徴として株式会社マイナビと連携をして，同社が主催する企画提案型のビジネスコンペに応募した点である。なお，本稿では，一般教育演習「キャリアデザイン」のうち，主に，企画提案型のビジネスコンペを中心に論述する。

表 1.「キャリアデザイン」 2005 年度の概要

1. 目的

「学ぶこと」と同時に「働くこと」の意義を十分考え，入学後のできるだけ早期から職業意識を持つことによって，今後の自らのキャリアデザインを考えるきっかけとする。

2. キャリア教育科目設定の背景

優秀かつ意欲的で社会に大きく貢献できる人材を育成し，世に送り込むことは，大学として極めて重要な役割の一つである。大学の評価は，卒業生が社会においてどのように活躍しているかによって定まると言っても過言ではない。

一方，本学卒業生に対する社会における最近の評価は，一般的には必ずしも高いものではない。

最近の学生をみた場合，入学後においてもキャリアへの意識が希薄であるのが現状である。

このため，入学後のできるだけ早期に自らのキャリアを考えるきっかけを与え，自らの目標に向かって前向きに勉学することを促したい。また，本学の教育理念である「フロンティア精神」，「国際性の涵養」，「実学の重視」及び「全人教育」を学生に十分認識させ，北海道大学としての誇りをもち，かつ独自性の高い学生を育成したいと考えている。

3. キャリア教育科目設定の意義

1）学生は入学後の早期から自らのキャリアを考えることによって学生時代の目標を定め，自らの目標にしたがった学業を進めることができる。

2）キャリア概論や学外講師などの話を聞くことによって，学生は社会のニーズを的確に把握し，時間をかけて自己啓発を進めることができる。

3）学生は「自己を高めること」の重要性に気付き，本学の特質である文系・理系が同一キャンパスにあることや学生が全国各地から集まっていることなどを十分に活用して，高い人間性を育む契機とすることができる。これは，本学の教育理念である「全人教育」の推進にも適っている。

4）キャリア教育科目におけるディスカッション等を通して「積極性」を養うことができる。これは，本学の教育理念である「フロンティア精神」の育成にも適っている。

5）北大が進めている「コアカリキュラム」と連携することによって，北大らしいキャリア教育を推進することができる。

表 2. 2019 年度　キャリアデザイン　スケジュール

①4 月 11 日（木）	○ガイダンス
②4 月 18 日（木）	○受講にあたっての基本事項 ○キャリア概論 I「キャリアとは何か」（担当教員講義）
③4 月 25 日（木）	○キャリアプランについての個人プレゼンテーション（1 回目）
④5 月 9 日（木）	○「図書館情報入門」
⑤5 月 16 日（木）	○テキストについての個人プレゼンテーション
⑥5 月 23 日（木）	○自己分析（1 回目）の実施 ○グループワークの内容の説明 ○グループワーク（1 回目）
⑦5 月 30 日（木）	○キャリア概論 II「社会が求める人材とは」（担当教員講義）
⑧6 月 6 日（木）	○グループワーク（2 回目）
⑨6 月 13 日（木）	○グループワーク（3 回目）（中間発表）
⑩6 月 20 日（木）	○グループワーク（4 回目）
⑪6 月 27 日（木）	○グループワーク（5 回目）（最終発表→提出）
⑫7 月 4 日（木）	○グループワークの振り返り
⑬7 月 11 日（木）	○キャリアプランについての個人プレゼンテーション（2 回目）
⑭7 月 18 日（木）	○結果発表を踏まえた振り返り ○自己分析（2 回目）の実施
⑮7 月 25 日（木）	○最終まとめ

3. 企画提案型コンペへの参加

3.1　企画提案型コンペの概要

本授業で参加した企画コンペは，株式会社マイナビが企画運営している「MY FUTURE CAMPUS」というキャリア教育に関するサイト(注3) においてグーグル合同会社が提供した課題解決型プロジェクトである。具体的には，「AI を活用しあなたが関心のある社会課題の解決策を提案して下さい」というテーマに対して，4 人程度のグループで企画書を提出し，審査されるというものである。全国からの応募の中から上位 10 位までに入ればさらなる投票によりトップ 3 が決定されることになっており，このトップ 3 のグループには，交通費はすべてグーグル社負担でグーグルの新社屋見学という特典が付与されていた。本プロジェクトテーマの趣旨や応募についてはすべて「MY FUTURE CAMPUS」のサイトで完結する仕組みになっていたが，サイトの利用方法や本プロジェクトの趣旨などについては，株式会社マイナビの担当者から授業内で説明をいただいた。テーマの趣旨・内容は表 3 のとおりである。

こうした企画提案型の課題を課す場合にはそのテーマ選定が重要になるが，今回の「AI を活用しあなたが関心のある社会課題の解決策を提案して下さい」という課題を選択した理由は以下の 3 つである。

1 つ目はあらゆる学部の学生が受講する全学教育科目であり，すべての学部の専門性と何らかの関連があることである。大学での学問が様々な形で今後の社会課題と密接に関連しているということを本授業により認識し，大学での学習意欲の向上につながってほしいと考えていたが，AI は今後の社会環境に大きな影響を及ぼすと考えられる要因であり，その内容や影響を明らかにするためには，あらゆる学問分野が関連している。例えば，理系であれば，AI そのものの技術的なものだけではなく，様々な分野への活用が期待されている。また，文系であれば，経済社会の変化，教育のあり方，法整備，倫理のあり方などが想定される。

2 つ目は，入学直後の学部 1 年生を対象にした一般教育演習（フレッシュマンセミナー）であり，これからの社会課題を解決するためには様々な専門性を持った人材が共同で解決策を提示していくことが不可欠であることを本授業により認識してほしいと考えていた点である。

3 つ目は，創造性を発揮し，共同で結論をまとめ，その内容をわかりやすく伝えることの重要性を認識してほしいと考えていた点である。これについては，OECD のキー・コンピテンシー（Key Competency）や日本の社会人基礎力などの 21 世紀型スキルに関

表 3. 課題の趣旨・内容説明文

「AI を活用しあなたが関心のある社会課題の解決策を提案して下さい」

これからの世の中を大きく変えるといわれている AI。あなたは AI についてどのくらい理解していますか？

「AI は人の仕事を奪う」という驚異の存在として考えている人も多いかもしれませんが，AI は人類の敵ではなく，私たちの生活や社　会を更に豊かにしてくれるものです。Google の学習コンテンツを見て，あなたの考える社会課題に対する解決策を提案してください。プログラミングなどのスキルは必要ありません。スケールの大きなものから身近なものまで，どんな題材を扱うかは自由です。

「これって AI を使ったらもっとよくなるんじゃないか」という自由な発想，アイデアを企画書にまとめて提出しましょう。

優秀作品には，2019 年に移転予定の Google 新オフィス（東京・渋谷）のオフィスツアーへご招待します。交通費も支給いたしますので，全国の学生さんからの応募をお待ちしています！

するものである(注4)。

こうした点に加えて，本企画コンペの大きな特徴として，全国の大学生が参加するプロジェクトであるという点である。大学入学直後の新入生は，入学難易度によって大学を無意識にランク付けしている傾向があるが，入学後は全国の大学生の中でどのように評価されるのかを知る機会は意外と少ない。このように，本プロジェクトの成果が順位という結果として明確になる点と，さらには，グーグルの新社屋見学というインセンティブを付与されたことによりモチベーションの向上につながったという点である。

3.2　グループワークの進め方

グループワークの進め方は，①グループ分けと内容の説明 (5/23)，②グループでの検討 (5/23，6/6)，③中間発表（6/13），④中間発表に対する質疑応答・コメント（6/13），⑤グループでの再検討（6/20），⑥最終発表 (6/27)，⑦最終発表に対する質疑応答とコメント（6/27），⑧企画書最終版完成（6/28），⑨提出 (6/28)，⑩振り返り (7/4)，⑪結果発表 (7/16)，⑫結果発表を踏まえた振り返り（7/18）という順で進めた。

①グループ分けと内容の説明

今回，受講生 22 名を 4〜5 人の 5 つのグループに分けた。グループ分けについては，文系・理系，男性・女性が同じグループに固まらないようにした。理由としては，多様な考え方や価値観を持っているメンバー内でのグループワークで一定の成果を出すという今後ますます重要になるであろう取組みを行ってほしいと考えたからである。

内容については，マイナビの社員よりテーマの内容，趣旨，今後のスケジュールを簡単に説明してもらい，グーグル社が制作した AI について簡単に説明した動画を視聴するとともに，より詳細な動画の視聴方法について説明をしてもらった。

また，5 つの審査項目（① AI の基本的理解度，②データ取得法が考えられているか，③ AI が課題解決に活かされているか，④課題解決へ期待が持てそうか，⑤総合印象点）についても説明があった。

②グループでの検討（計 2 回）

①の説明の後，表 4 の留意事項を示したのみで，すぐに具体的なグループでの検討を行った。

③中間発表

パワーポイントを用いて，各グループ 10 分でプレゼンテーションを行った。プレゼンの内容としては，具体的なテーマとその内容，現在の進捗状況，今後の進行予定，困っていること・相談したいことであった。

④中間発表に対する質疑応答・コメント

グループの発表ごとに他の受講生から質問をしてもらい，それに答えるという時間を各 5 分設定した。これは，グループメンバー以外からの疑問点を挙げてもらうことにより，当事者が気づいていない点を明らかにするという目的とともに，疑問点を遠慮なく質問するということができるようにするという狙いもあった。

授業の最後に担当教員とマイナビ担当者より総括的なコメントを行うとともに，各グループへのコメ

表 4. グループワーク初日の留意事項

■この場で決めること
①リーダー（全体の進行。責任を追うわけではありません）
②連絡手段（LINE や Skype の ID 交換など）
■リーダー主導でなるべく早く決めること
①暫定的なミーティング日程（オンライン，オフラインともに）
②全体的なタイムライン（いつまでに市場調査をする，いつまでにアイデアをまとめる，など）
③大まかな役割分担（調査や企画書まとめなど）

表 5. 担当教員の総括コメント

・テーマはみんな面白い
・まず最初に，テーマとうまくいくとどんなメリットがあるものなのかをドーンと書く。
・AI のもとになるデータをどうやって集めるのか，現状はどうなっているのか，どのように学習させるのかなどをより具体的にすべき。
・実施にあたって組めそうなところがあれば明示した方がより具体的になる。
・主なターゲットやこれが実現することによってメリットを享受するのは誰かなどを明確にした方がよい。

ントは時間がなかったので，終了後にペーパーで各グループに対してコメントを行った。担当教員の総括コメントは表 5 のとおりである。なお，これに加えて，各グループに個別のコメントをメールで送信した。

⑤グループでの再検討

中間発表における質疑やコメントも参考にして，各グループにおいて企画書のブラッシュアップを行い，最終発表用のプレゼンレーション用資料を作成した。

⑥最終発表

課題提出の前日なのでほぼ完成版のプレゼンテーションとし，時間は中間発表同様に各グループ 10 分とした。

⑦最終発表に対する質疑応答とコメント

中間発表と同様にグループの発表ごとに他の受講生から質問をしてもらい，それに答えるという時間を各 5 分設定した。

また，授業の最後に担当教員とマイナビ社の担当者より総括的なコメントを行ったが，企画書提出の前日であったので，提出にあたっての方法の確認や留意事項が中心であった。

⑧企画書最終版完成（6/28）

⑦を踏まえて各グループにおいて最終修正を行い，企画書を完成させた。なお，最終版の完成にあたっては各グループとも授業時間外に集まり実施した。

⑨提出（6/28）

提出は各グループの責任者が「MY FUTURE CAMPUS」のサイトから企画書（パワーポイントを PDF 化したもの）を Web 経由で提出した。ただし，今回は 1 グループが送信先を間違い未提出扱いになってしまったので，提出方法の再確認の必要性を感じた。

それぞれのグループが提案したテーマは表 6 のとおりである。

⑩振り返り（7/4）

結果発表の前であったが，授業内で振り返りを行った。振り返りの内容は，グループワークを通して，比較的うまくいったところや反省点を話し合い，また，個人ベースで，自分自身の貢献や不足していた能力について考えてもらい，発表をしてもらった。

グループワークを通してうまくいったところとしては，「みんなでよく考えることができた」「積極的に取り組めた」「授業以外の時間帯で集まることができた」「作業をグループ内で分担できた」などの意見があった。一方，反省点としては，「計画的に進めることができなかった」「アイデアをもっと出すべきだった」「資料集めが不十分だった」「グループ内の情報共有が不十分だった」などの意見があった。個人ベースで不足していた能力としては，「知識不足であった」「発想力が不足していた」「自分の意見

表 6. 各グループが提案したテーマ

○「家庭菜園アドバイザーアプリ」
　家庭菜園で育てている植物をスマホで撮影・送信するだけで AI により適切なアドバイスをもらえるゲーム感覚で植物が育てられる家庭菜園アドバイザーアプリ
○「害獣スイーパー」
　AI を動物の識別に活用し，物理的にではなく生理的に追い払う方法を AI が提案し実施
○「なんで AI が除雪に！？」
　道の上のセンサー，監視カメラ，ドライブレコーダー等から雪の状況に関するデータを入手し，AI により除雪の必要な場所をリアルタイムで特定
○「手話者をつなぐ同時通訳」
　あらかじめスマホに搭載された翻訳機能を用いて手話を即座に音声化，テキストすることより手話話者と言語話者のやり取りをスムーズにする
○「スマホ警察」
　スマホに AI を用いた詐欺防止システムを搭載し，使用者を詐欺から守る

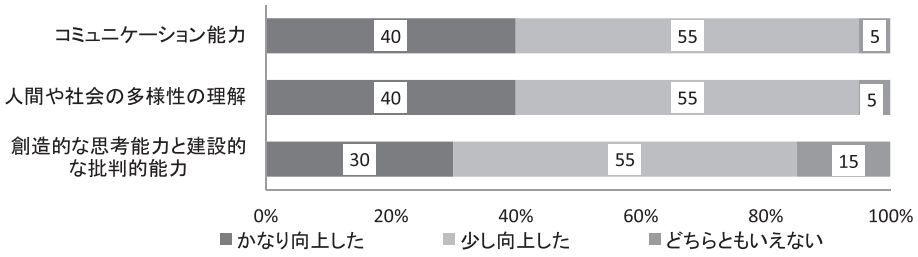


図 1. 授業アンケートの結果（汎用的能力の向上について）

を相手にわかりやすく伝えるのが難しかった」「人の意見をしっかり聞くことやそれに対する反応が不十分だった」などの意見があった。

⑪結果発表

結果はグーグル社の担当者から各グループの責任者に直接メール送られてきた。5 つの審査項目（① AI の基本的理解度，②データ取得法が考えられているか，③ AI が課題解決に活かされているか，④課題解決へ期待が持てそうか，⑤総合印象点）ごとに 10 点満点の点数と簡単なフィードバックコメントが付されていた。

残念ながら全国で上位 10 位に入ったグループはなかったが，「手話者をつなぐ同時通訳」が上位 11〜20 位に入り，佳作として Web サイト上で紹介された。

⑫結果発表を踏まえた振り返り

グーグル社からのフィードバックコメントに対して，「納得感のあるコメント」「納得感の薄いコメント」を挙げ，理由とともにグループ内で話し合って発表をしてもらった。

3.3　学生の評価（授業アンケートより）

授業の最終日に実施した本学共通の全学教育科目に係る授業アンケートの結果をみると（図 1），追加設問である「コミュニケーション能力」「人間や社会の多様性理解」については 9 割以上の学生が「かなり向上した」「少し向上した」と回答しており，また，「創造的な思考能力と建設的な批判能力」についても 8 割以上となっている。したがって，本授業を通して本学が全学教育で求めている能力の向上がみられたといえる。また，担当教員が設定した設問である「この授業を受けて，将来のキャリアを考える上で役に立ちましたか」「この授業を受けて，大学における学習意欲が高まりましたか」「この授業を来年度に皆さんの後輩にも受講してほしいと思いますか」とも高い評価であった（図 2-1〜3）。

また，同アンケートの自由意見として「他学部，特に理系や文系の枠組みを超えてコミュニケーションをとる貴重な機会となったので楽しかった。自分のキャリアについて真剣に考えるきっかけとなり，

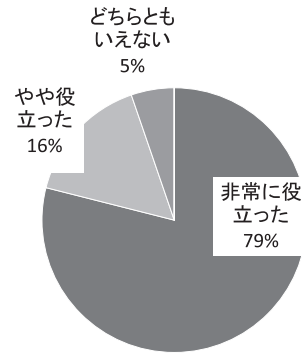


図 2–1. この授業を受けて，将来のキャリアを考える上で役に立ちましたか

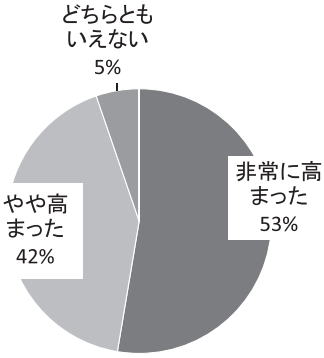


図 2–2. この授業を受けて，大学における学習意欲が高まりましたか

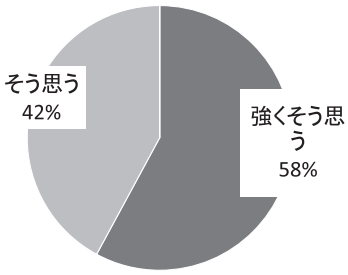


図 2–3. この授業を来年度に皆さんの後輩にも受講してほしいと思いますか

グループワークを通して成長できたという点もよかった」「グループワークを通して，コミュニケーション能力や相手の意見を聞く力，課題発見力など様々な能力を向上させるような内容であった」「グループワークで様々な学部の人と関わり，自分にはない考えを知ることができた」などの声もあり本授業の目的がおおむね達成することができたのではないかと思われる。

4. 今後の課題

4.1　グループワークの必要時間

授業アンケートの自由意見として,「グループワークの時間がほしい」という意見もあった。どの程度の時間を確保するのが最適であるかを判断することは難しく, 長ければよいというわけではない。当然, 授業時間内の対応だけでは不十分であるが，予習・復習時間を勘案して時間設定をしており，また，タイムマネジメントや役割分担などの重要性を認識するためにはおおむね妥当であったと判断している。

4.2　教員等の関与の仕方

グループワークの進行は，基本的には各グループに任せたが，ディスカッションの方法，企画書の作成方法，企画の評価ポイントと企画書でのアピールの仕方などについてもう少し関与すべき点もあった。

具体的には, ディスカッションの手法については, 高校までではあまり経験がないようなので，留意事項や関連の教材などの紹介だけでもしておいた方がよかったかもしれない。企画書については，評価のポイントが事前に提示されており，そのポイントに訴えかけることが結果として高く評価されることだけでも重点的に指導しておけばより評価の高い企画書になったのではないかと思われる。

その一方で，中間発表の際のコメントの内容にはより注意が必要であった。教員等のコメントに過剰に反応してしまい，結果として斬新なアイデアが中途半端になった印象があった。学生の若い柔軟な発想を軽減させてしまうようなことのないように留意すべきであると認識した。

5. おわりに

本稿は，キャリア教育科目として開講している授業科目において，アクティブ・ラーニングの一環として全国的な企画提案型のコンペに参加し，その効果や留意点等を明らかにしたものである。結果とし

ては，おおむね学生の能力や意識の向上にも効果がみられたが，同時にいくつかの課題もみられた。

キャリア教育とは，中央教育審議会（2011）『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』によると，「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と定義されており，決して就職支援のための教育ではない。授業を通して自ら大学教育の意義や社会との関連性を認識し今後の有意義な大学での学習や生活に繋がっていくことやいわゆるジェネリックスキルの向上は結果として将来のキャリアを広げていくことにもつながるものであり，広い意味でのキャリア教育であるといえる。

したがって，本授業のみで学生が成長するわけではなく，本授業で得た様々な気づきを今後の学生生活や将来のキャリア設計に活かしていくことが重要である。

本授業は，4．でみたようにいくつかの課題があるものの，初めての取り組みであったがおおむね学生の評価も良好であり，学生の能力や意識の向上にも効果があったのではないかと推察される。したがって，2020 年度についても，2019 年度の課題に配慮しながら同様の取り組みを実施する予定である。

注

1. 「特別講義」とは，総合的な主題に基づいて，学外の学識経験者などが担当する特別に企画された授業である。
2. 「一般教育演習」とは，初年次の学生を対象としたさまざまな主題を持つ少人数クラス（20 人程度）の演習である。この演習を通じて，1 年次の学生集団が従来の教科区分に拘束されない共通のテーマについて教員の指導の下に学修し討議する機会を持つことができる。
3. https://mfc. mynavi. jp/参照。
4. 「21 世紀型スキル」（21st Century Skill）については松尾（2015）などを参照。

参考文献

朝日新聞（2005），「潜在能力を引き出す」（2005 年 9 月 27 日付け朝日新聞（夕刊）4 面）

中央教育審議会（2011），『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（平成 23 年 1 月 31 日）

松尾知明（2015），『21 世紀型スキルとは何か―コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較―』，明石書店